

## 合奏の心理的効果

心理学部 発達教育心理学科 山崎 晃男

音楽を聴くことが聴取者の感情・気分を与える影響については、近年、多くの実証的研究が行われ、知見が蓄積されてきている。それに対し、音楽を演奏することが演奏者の感情・気分を与える影響については、そうした影響の存在が音楽療法や学校教科としての音楽教育の前提となっているにも関わらず、実証的研究が極めて乏しい。また、音楽療法や学校教科としての音楽教育においても合奏が主であるように、音楽演奏において合奏が占める割合は非常に大きいにも関わらず、音楽心理学においてこれまで行われてきた演奏研究の多くは独奏を対象とし、合奏が研究対象とされることは比較的少なかった。このような中、本研究は音楽における感情研究と合奏研究とを結びつけ、合奏を行うことが演奏者の気分を与える影響について検討するという点でユニークなものである。

本研究の第一の目的は、ピアノの連弾という合奏活動を行うことが演奏者の気分にはいかなる影響を及ぼすかについて明らかにすることである。それと同時に、その活動の音楽的活動としての側面と共同的活動としての側面、その活動に対する演奏者自身の認知的評価などが相互にどのように関係するか、またそれらが演奏者の気分変化にどう関わっているかについて検討することも目的としている。

上記の目的のために、以下のような実験を行った。

### 方法

被験者：ピアノの初級・中級者18名(18歳から21歳の女性)。

装置：被験者は実験室内に向き合って置かれた2台の電子ピアノを演奏する。演奏曲は、C. M. von Weber作曲「Marcia, Op. 3-5」。演奏者の様子はビデオカメラによって記録された。

測定：被験者の気分は、日本版POMSによって測定された。また、連弾活動に対する演奏者の認知的評価について、活動に対する満足感、活動の楽しさ、全体としての音楽的質、自分自身の活動の音楽的質、課題、自分自身の能力・成長、連弾相手の能力・成長、対人的交互作用、の8項目について計34の質問からなる質問用紙を用いて測定した。

手続き：実験の流れは以下のとおりであった。

0. 実験開始の約1週間前に楽譜を配布。 1. POMSで

実験開始時の気分を測定。 2. 連弾相手との親密度や実験開始時までの練習時間などについての質問。 3. 1回目の連弾演奏。 4. 20分間の自由練習。 5. 2回目の連弾演奏。 6. POMSで連弾活動後の気分測定。 7. 連弾活動についての認知的評価の測定。

被験者は、1から7の手続きからなる実験を約1週間の間隔をあけて3回行った。

### 結果

POMSは、緊張、抑うつ、怒り、活気、疲労、混乱という6つの下位尺度からなるが、連弾活動前後での尺度値の変化を調べたところ、すべての下位尺度で有意に得点が異なり、連弾後、気分が肯定的に変化していることが示された。

合奏活動に対する演奏者の認知的評価について、3回の実験を通じた変化の有無を調べたところ、連弾相手の能力・成長についての評価を除く7項目において、実験回数を重ねることによる評価の上昇が見られた。

活動に対する満足度もしくは楽しさを目的変数、それ以外の6項目の認知的評価を説明変数とする重回帰分析を行ったところ、活動に対する満足度には全体としての音楽的質および自分自身の活動の音楽的質に対する評価が有意に関わっているのに対し、活動の楽しさには自分自身の能力・成長や連弾相手の能力・成長、対人的交互作用に対する評価が有意に関わっていた。したがって、合奏活動に対する満足と楽しさは、心理的に異なる評価に基づくものであることが示唆された。

POMSの下位尺度のうち、怒りと合奏練習に占める個人的活動の割合との間に負の相関がみられたり、疲労と連弾の音楽的質に対する評価や自分自身の能力・成長に対する評価との間に負の相関がみられたりするなど、気分変化をもたらす要因についていくつかの示唆が得られた。

### まとめ

本研究では、ピアノの連弾という共同的音楽活動が演奏者自身の気分には肯定的影響を及ぼすことが確認された。こうした気分変化には、合奏練習に含まれる個人的活動と共同的活動の割合、合奏の様々な側面に対する演奏者の認知的評価などが関わっていることが示唆されたが、その詳細については今後の課題である。